



目 次

医学部分館の今と今後
本学に赴任して
中小コレクションの紹介
利用状況
本学教官著作寄贈図書
日本紹介コーナー図書について
ミニシリーズ・情報検索コーナー その9
(OPAC (図書・雑誌)検索)

医学部分館の今と今後

平井和光

鳥取大学医学部は、創立52年目を迎え当初の小学校校舎を借用した講義棟の姿から米子城跡を借景としたビル群で構成される医学部へと著しい変貌をとげた。図書館分館も同様に米子市図書館の間借りから出発して昭和46年に3階建てのビルに新築され一応図書館らしい姿になった。昭和30年の図書所蔵数はわずか2600冊、雑誌57種であったものが今日ではそれぞれ15858冊、1054種を数える。さらに近年CDサーバー、パソコンの導入と各種のデータ・ベースの拡充により情報検索が高速・大量化し、雑誌のオン・ライン化など電子メディア・ライブラリへと変容している。将に情報化時代の最先端に位置する今日である。さらに、夜間(2時まで)休日開館が行われるようになり利用者の便宜が図られるようになった。

しかしながら、図書館の将来像がバラ色と考えるのは早計である。近年5年間の図書館分館の予算額は109%の伸び率でしかなく、雑誌をはじめとする図書の高騰をカバーできる状況にはないのが現実である。この相対的な予算減少のしわ寄せは、医学部分館における最も重要な欧文雑誌の購入費が減額さ

れ、平成8年度には170種であったものが12年度には13種に減少している。この数は悲しくも中国・四国地区医学図書館の中では最低のレベルである。雑誌数の減少は、図書貸出数を低下させ、必然的に相互貸借依頼件数を増加させ年間7700件に及んでいる。また、複写機機能の向上により文献複写数が増加し、図書貸出件数の減少に寄与している。図書館は読みたい図書が読めることが主な役割であり、相互貸借依頼業務の取り扱いではないのであるが、当図書館の図書貸出冊数、一人当たり貸出冊数においては中国・四国地区9医学系図書館中2番目に少なく、一人当たり相互貸借依頼件数は2番目に多いのが実状である。我が図書館機能は危機に瀕していると言ってよからう。今後、ますます情報量は多くなり、活字情報に増して電子情報は細分化と総合化が進み、検索と閲覧は重要になろう。

さて、このような悲劇的状况に如何に対処すべきだろうか、容易なことではない。抜本的解決は予算の増額でしかない。しかし当世の経済状況では望みようがないのも当然である。配当額を如何に効率よく執行するか、または、いずれからか打ち手のこづ

ちを探すのが当事者に負わされる責務と言われようが、これもいよいよ困難な責務である。電子ジャーナルの活用と利用者負担制の導入などはネコでも考えそうな効率化である。いや、サービス業務の効率化とはサービスのスリム化を前提にすることではなからうか。いずれの共同利用サービス施設においても運営・維持費の少なさに悩まされているのが当世風実態であり、施設長に負わされる過分の責務である。でも、嘆いていても解決されず、利用者にとっ

てはサービスの向上のない施設への関心は低下するのは必定である。そこには利用者と施設の共同作業による施設の充実・強化戦略の策定しか方途はないように思われる。近い将来に見込まれる大学の独立行政法人化という予測を越える大変革に対して大学の中で共同利用サービス施設の新たな位置付け、方向付けが求められている。利用者と施設が一体となり、あるべき方向に進むしか方途はないようだ。

(医学部分館長)

本学に赴任して

東海安興

この4月1日に前任の茨城大学から本学に赴任して、半年が経過しました。大学図書館職員として約25年の我が経験が、多少とも本学のお役に立てばと願っています。

さて、自己紹介も兼ねて、小生の私事を披露したいと思います。実は、この鳥取へは33年前に既に訪問しています。学生時代(岡山大学)に同じ下宿の友人(気仙沼出身)と鳥取近辺のお寺の軒下を寝床とする旅行を計画し、実行したことがあります。本学を見学して鹿野へ向かう途中で、見知らぬ人の車に吉岡温泉まで便乗させてもらったことは、今でも忘れられない思い出となっています。

小生の私事はこれくらいにして、「本学図書館の現状と今後の課題」について拙論を少々述べてみたいと思います。赴任の直後に事務部の課長、図書館専門員、係長にお願いして、現場や実務の責任者の方々が抱えている課題の説明を受けました。これは直ぐに職員と共通の認識を持つことができ良かったと思っています。次に、現在までに本学で公表された附属図書館に関する館報、報告、答申等を一通り目通しました。各執筆者、報告書等の主張でもっともなことと共感した部分もありましたが、短期間でどの程度本学の実状を正確に把握し得たかは自信が

ありません。

ところで、最近の図書館関係の雑誌に「図書館の生き残り作戦」と称したテーマが目にとまりました。大学図書館でも当面する緊急課題であり、抱えている課題については、まず各大学に共通するものと各大学の固有のものに分けられます。大学を取り巻く状況が大学図書館の大・中・小に関係なく、共通した課題となっています。

例示すると建物、図書館職員、図書館資料、予算等です。建物の設計理念は利用者の利用動線、情報の獲得の効率化、文化的涵養の支援にも大きな影響を及ぼします。次に、図書館資料に精通した図書館職員による本格的なレファレンス支援体制、すなわち各主題における高度な学術情報提供が今後望まれてきます。学術情報の媒体の多様化に伴い、情報提供の高度化について急速な展開が予測されています。今後、それらへの迅速且つ的確な対応が求められることとなります。それ故、より資質の豊かな図書館職員の養成が急務で重要な課題になるであろうと考えています。

次に本学固有の課題として、平成7年に部課長制に移行して業務の改善等に一定の成果を窺い知ることができるが、全学構成員の共通理解による図書館

職員の確保が是非とも必要であります。また、図書館予算システムについては旧体制のままであること等、今後の全学的な検討課題として残されています。

以上、思いつくままに列挙してみました。このうち、何を実行し実現するのかという目標がありますが、「半世紀に及ぶ本学の先輩が蓄積した財産を有効に活用しながら、明日に向かって、一歩更に一歩と時代の要請を先取りしながら、事を進めて行きたい。」と述べておきます。

もう一つ、手前味噌ですが、紹介しておきたい本があります。この本は、最近の図書館の役割と動向をやさしく解説しています。

山本毅雄氏著

「21世紀の本の読み方」

(岩波書店、1999年) 岩波高校生セミナー

辻由美氏著

「図書館であそぼう 知的発見のすすめ」

(講談社、1999年) 講談社現代新書1453

であります。両著者に大変失礼な表現になりますが、下宿先でも寝ころんだまま、気楽に読める本です。読んだ後、きっと図書館のことがわかっていただけのものと思います。学生の皆さんへご一読をお薦めします。

末筆になりましたが、全学教職員のご支援とご理解を賜りますように節に念願して、就任の挨拶いたします。

(事務部長)



《平成11年度中小コレクションの紹介》

平成11年度は、各部局から購入希望のあった次のものを購入しました。

すでに整理を終え【 】内の場所に配架していますのでぜひご利用ください。

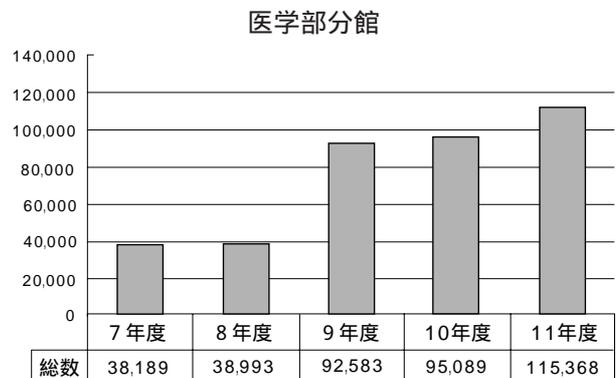
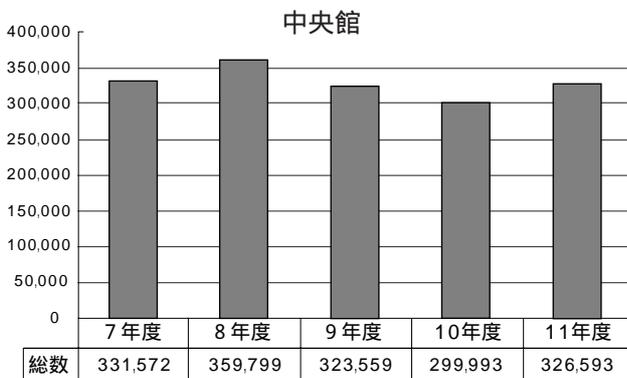
①道徳教育 復刻版 全12巻、別巻1 国書刊行会刊【1階雑誌書庫】
②Encyclopedia of Bioprocess Technology 5vols. John Wiley & Sons刊【1階第一閲覧室 464.03 : Enc】
③Encyclopedia of Molecular Biology 4vols. John Wiley & Sons刊【1階第一閲覧室 464.1 : Enc】
④生物体の構造と機能 (ジェムコビデオライブラリー) 全12巻 ジェムコ出版刊 【視聴覚室】
細胞のつくる城壁 光受容細胞 神経の興奮 心臓
昆虫ホルモン 海の哺乳類 動物の呼吸 血糖のコントロール
生殖のコントロール 哺乳類の腎臓 調節とコントロール 視神経の発達
⑤免疫化学ビデオライブラリーシリーズ 全18巻 ジェムコ出版刊 【視聴覚室】
(1)免疫学に迫る
免疫系のはたらき 抗体の多様性はなぜ可能か 免疫応答と免疫細胞
モノクロナル抗体 自己免疫疾患 感染症
(2)ほぼ万能の化学
生命誕生の化学 見えないものの化学 創造の化学
サバイバルの化学 パワーと化学 生と死の化学
(3)化学アニメーションシリーズ
原子軌道 結晶 ディールス・アルダー反応
求核置換 立体化学 原子価殻電子対反発理論

附属図書館利用状況

年度別開館日数

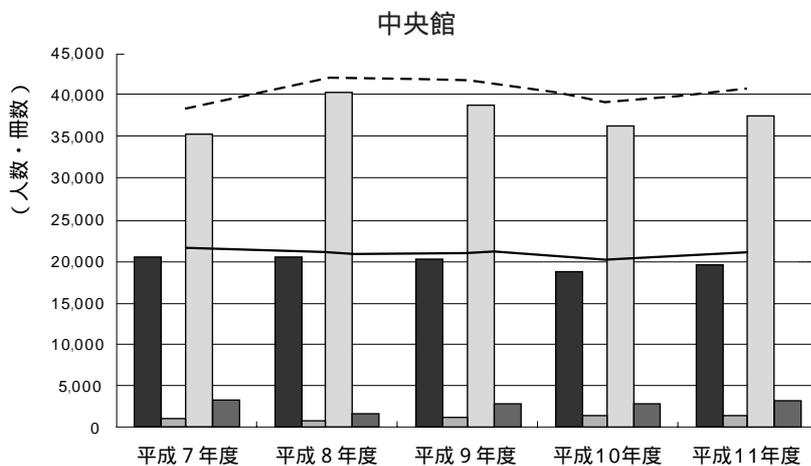
	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度
中央館	262日	263日	269日	270日	298日
医学部分館	263日	276日	276日	277日	316日

年度別入館者数

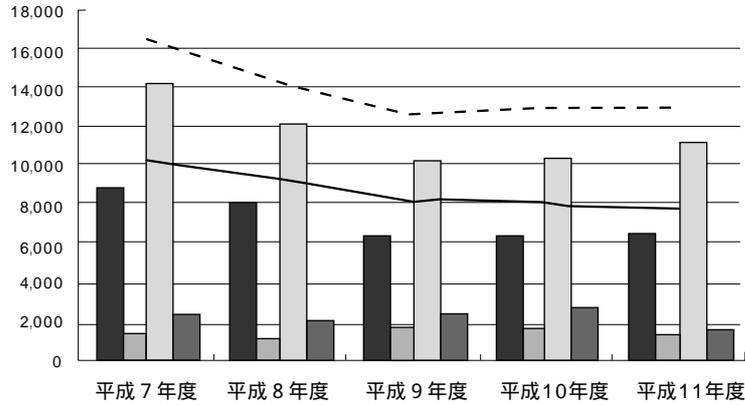


年度別貸出者数・冊数

貸出者数(学生)
 貸出者数(教官)
 貸出冊数(学生)
 貸出冊数(教官)
 貸出者数合計
 貸出冊数合計



医学部分館

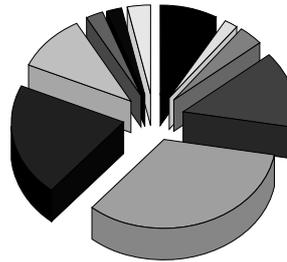


平成11年度分類別貸出冊数

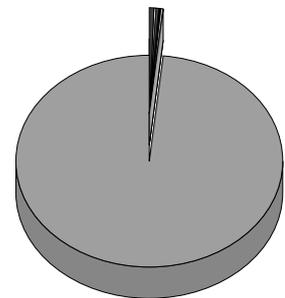
分類	貸出冊数	
	中央館	医学部分館
総数	40,713	12,814
0 総記	3,733	29
1 哲学	687	47
2 歴史	1,461	0
3 社会科学	5,600	57
4 自然科学	13,561	12,621
5 工学	8,256	19
6 産業	4,084	2
7 芸術	1,105	30
8 語学	893	2
9 文学	1,333	7

- 0 総記 □ 1 哲学 ■ 2 歴史 ■ 3 社会科学
- 4 自然科学 ■ 5 工学 ■ 6 産業 ■ 7 芸術
- 8 語学 □ 9 文学

中央館



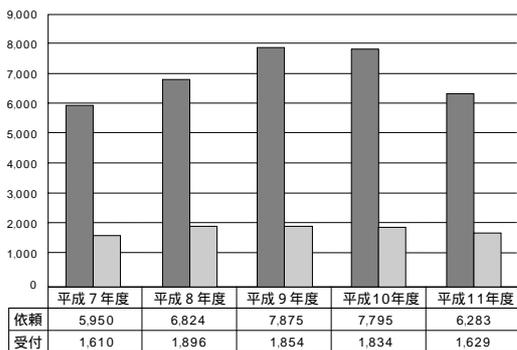
医学部分館



文献複写学外依頼・受付件数

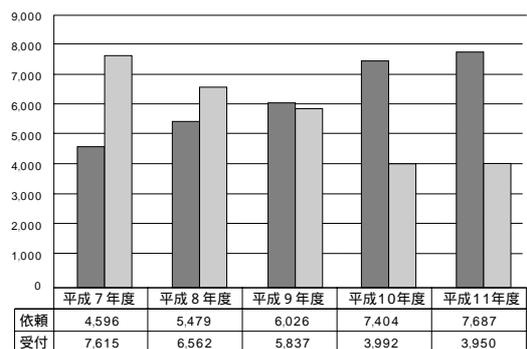
中央館

■ 依頼 □ 受付



医学部分館

■ 依頼 □ 受付



本学教官著作寄贈図書

(平成11年9月～平成12年8月受入分)

この度は次のように寄贈していただきました。ありがとうございました。中央館2階の本学教官著作寄贈図書コーナーに配架し、利用に供しています。

(寄贈者名のABC順。所属等は平成12年9月1日現在)

頭文字	寄贈者名・所属等	書名	発行所名・発行年	備考
EH	江原昭三 (元教育学部)	虫屋の来た道	日本図書刊行会 1999年10月	著者
KA	門田眞知子 (教育地域科学部)	晩年のポーヴォワール	藤原書店 1999年12月	訳者
KA	甲斐英則 (農学部)	応用昆虫学の基礎	朝倉書店 2000年4月	著者
KI	木地實夫 (工学部)	有機工業化学 そのエッセンス	裳華房 1999年9月	分担執筆
MI	道上正規 (工学部)	わかりやすい講義をめざして	鳥取大学 2000年3月	鳥取大学教授方法調査研究会プロジェクトリーダー
MO	森下喜一 (元教育地域科学部)	鳥取県方言辞典	富士書店 1999年10月	編者
MO	森下喜一 (元教育地域科学部)	鳥取の方言をたずねて	白帝社 1999年10月	著者
NA	中島路可 (元工学部)	聖書の植物物語	ミルトス 2000年4月	著者
OK	岡村俊明 (教育地域科学部)	詳注版 ヒーニー詩選	あぼろん社 1999年12月	編注者
TA	谷守正寛 (教育地域科学部)	日本語モンゴル語面白辞典	交友プランニングセンター 1999年10月	著者
TA	谷守正寛 (教育地域科学部)	日本語ベトナム語面白辞典	交友プランニングセンター 1999年10月	著者
TA	田辺賢二 (農学部)	果樹園芸 第2版	文永堂出版 2000年3月	共著
TO	徳高平蔵 (工学部)	自己組織化マップの応用 多次元情報の2次元可視化	海文堂 1999年2月	著者
YA	山口巖 (元教育地域科学部)	パロールの復権 ロシア・フォルマリズムから プラーグ言語美学へ	ゆまに書房 1999年11月	著者



平成11年度 日本紹介コーナー図書について

平成11年度は、留学生用図書購入費で計20点の資料を購入しましたので紹介します。

なお、選定には教育地域科学部の谷守先生、工学部の吉野公先生、農学部 of 松村先生のご協力を得ました。ここに改めてお礼申し上げます。

(書名のABC順)

著(編)者名	書名(和文書名等)発行年
Edward E. Daubほか	Basic technical Japanese. 1990
黒川真道編	江戸風俗図絵1993
E. ライシャワーほか監修	英文日本大事典1993
William P. Cunningham	Environmental encyclopedia 2nd ed. (環境百科事典) 1998
芦生公男編	現代語から古語が引ける古語類語辞典1995
網野善彦ほか	いまは昔むかしは今 1 ~ 5, 索引1989-1999
狩野博幸	近世風俗画 1 ~ 5 1991
E. Julius Dasch	Macmillan encyclopedia of earth sciences. (マクミラン地球科学百科事典) 全2冊1996
福田アジオほか	日本民俗大辞典 上 1999
藤田孝ほか編	和英擬音語・擬態語翻訳辞典 1984

「第48回中国四国地区大学図書館協議会総会」及び 「第27回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会」を開催

平成12年4月27日(木)~28日(金)の両日、本学が当番校となって、ホテルモナーク鳥取で上記の会議を開催した。会議には、中国四国地区の国公立53大学から106名の図書館長、事務(部・課)長が参加し、熱心な意見交換や討議が行われた。総会全体会議では「各県における大学図書館等協議会のあり方」高騰する学術雑誌への対応と電子ジャーナルの導入について、図書館長会議では、「当面する諸問題」として国公立の共通問題である図書館予算削減への対応について、また事務(部・課)長会議では「コンピュータ資源の保全」「コンピュータウイルスやハッカー対策」について等が主な議題であった。翌28日の国立大学協議会では「学術情報基盤の整備に関する委員会等について」「図書館の財政基盤の確立方策」等について討議するとともに、文部大

臣等に要望する事項について協議が行われた。



OPAC (図書・雑誌) 検索

OPACは、鳥取大学附属図書館が所蔵している図書・雑誌を検索するためのツールです。中央館に関しては、平成2年度以降に受け入れた図書と、図書館開架図書及び雑誌について検索できます。今回OPACの画面が新しくなりましたので、改めて検索方法について簡単に説明したいと思います。

鳥取大学附属図書館のホームページの“OPAC検索”をクリックするとOPACの初期画面になります。



画面左側のフレームから、検索したいデータベース(和図書、洋雑誌など)を選択し、マウスでクリックします。中央館・医学部分館の図書・雑誌が検索できます。右側のフレームにはヘルプが表示されますので、参考にして下さい。

検索画面が開いたら、検索したい語句を入力します。まず、入力するエリアに矢印を持っていき、クリックします。カーソルが点滅しているのを確かめてから入力して下さい。検索語を入力し、“検索”ボタンをクリックすると、右側の画面に検索結果一覧が表示されます。

検索語入力の注意点

著者名で検索するときは、必ず「姓&名」の形で入力して下さい。

フリーワード検索では、全ての書誌情報(書名・著者名・出版社・ISBN・ISSNなど)からの検索が可能です。各フィールド内で複数の検索語を入力する場合は、“&”(かつ)と“|”(または)を用います。



右画面の検索結果一覧から、該当する書誌を選び、クリックします。左画面に詳細情報が表示され、配架場所や請求記号、貸出中かどうかなどがわかります。配架場所が“図書館開架”になっているものは図書館の書架にあります。アルファベット4文字で表示されているものは研究室に所蔵されています。“研究室コード表”をクリックすれば研究室名を調べることができます。

なお、請求記号とは図書の背表紙の下方に付いているラベルの番号のことで、図書館の書架にはこの番号順に並んでいます。



雑誌の場合は、配架場所と所蔵巻数が表示されます。継続状況の欄に+がついているものは、継続して受け入れていることを表し、ついていなければ、そこで中止になっています。受入状況の欄には、最新の受入情報が表示されます。

以上簡単な説明でしたが、OPACは鳥取大学の所蔵資料を検索する基本ツールですので、ぜひ利用して下さい。なお、利用方法などわからないことがありましたら、遠慮なく係員にお尋ね下さい。